

# NEWS

## 病院ニュース

2009年4月 第17号 (年4回発行)

主な内容

- 1面 ●新薬、医療機器をチェック(臨床試験部)  
●千葉中生徒「臨床試験部見学会」
- 2面 ●千葉大病院有識者懇談会 ●「シミュレーション・センター」の整備  
●がん相談支援センター
- 3面 ●お口を清潔に保ち、早期QOLの向上を (ミニニュース)  
●学生と職員の花展 レジデントハウスがオープン/糖尿病新患指導/  
●採用内定看護師の早期研修 臨床医学研究助成会について
- 4面 ●<フリートーク>呼吸器内科教授：巽 浩一郎  
●<トピックス>あなたのコンタクトレンズは大丈夫？  
●<爰鼻むかし・昔>天王塚と千葉氏



千葉大学医学部附属病院

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1  
TEL 043-222-7171 (代表)

http://www.ho.chiba-u.ac.jp/

## 一人でも多くの患者さんを救うため 新薬、医療機器をチエック！ 臨床試験部

大学病院は、新しく開発された医薬品や医療機器に関して試験を行い、よりよい治療法を確立して、患者さんの期待に応える使命もあります。そのためには科学的で倫理性に基づいた臨床試験が不可欠といえます。

千葉大学医学部附属病院には「臨床試験部」があり、厚生労働省から全国十カ所ある「治験と臨床試験の中核病院」のうちの1施設として指定を受け、アカデミック臨床研究機関(ARO推進室)を設置して業務を進めています。以下、臨床試験部の花岡英紀部長をはじめ各部門スタッフに役割、心構えなどを語っていただきました。

### 何よりも科学性・倫理性に基づいて

花岡英紀(部長)



臨床試験部は、新しく開発された医薬品や医療機器に関して、その効果と安全性を調べる部門であり、先端医療を担う重要な役割を果たしています。

具体的には、被験者(患者さん)と医師と依頼者(製薬会社)の間に立つて、試験が迅速かつ的確・適正に実施されるようコーディネートします。

その基本理念では「ヘルシンキ宣言」「ベルモント・レポート」でそのガイドラインが示されているように、人を対象とする医療にあつては患者福祉の尊重(患者の自発的参加)が大原則。また、しっかりと科学的根拠を持ち、高い倫理観に基づき判断が求められているのです。

### 臨床試験部の主な活動

●臨床試験・治験管理業務  
臨床試験および治験の受け入れ、実施に関する諸手続きの取り扱いなどの事務局業務および治験審査委員会事務局業務を行っています。医師主導治験の推進も行っていきます。

●コーディネイト業務  
治験依頼者、治験責任医師および被験者の間に立って、治験が適正に実施されるよう支援します。支援内容は被験者のリクルート、同意取得時の補助説明、被験者のケア、症例報告書作成補助、直接閲覧への対応など。

●事前審査・ヒアリング業務  
臨床試験の実施について科学性、倫理性を検討し、IRBに審査資料を提出しています。

●教育研修セミナー  
臨床試験および治験の推進のための教育セミナーを開催。

●臨床試験部ミーティング  
臨床試験の実施に関する問題点につき、部長を中心にスタッフ全員で検討を行っています。

スタッフは、医師、看護師、薬剤師、コンピュータ技術などいろいろな部門のスペシャリストで構成。何よりも、チームワークが大切なセクションといえます。

この部門を担当して、日頃痛感していることは、外国、特にアメリカのFDA(食品医薬品局)などに比べ、わが国の新薬の認可にはきわめて時間がかかるところ。この点がかろう少し改善されればと思っています。

### 試験、治験の受け入れ手続き

青柳玲子(薬剤師)



臨床試験や治験の受け入れ実施に関する手続き、医師主導の治験推進、また治験審査委員会の事務を担当しています。仕事はやや地味ですが、部門の基本的な部分に関わることで、常に緊張感を忘れないよう心がけています。

### 患者さんの不安を取り除く

斎藤美和(CRC・看護師)



「CRC」は、クリニカルリサーチ・コーディネーターのことで、看護師、薬剤師、臨床検査技師の資格を持つ臨床試験の専門スタッフのこと。私の仕事は看護師として、治験が決まった患者さんの不安を取り除くための支援をすること。ここでは看護師の経験をフルに生かしています。

医師、患者さんとのコミュニケーションはもつとも大切で、特に患者さんが強く希望されている新薬が公式に認可されたときは、大きな喜びを感じます。

### AROの一員として充実した日々

片山加奈子(ARO推進室・薬剤師)



治験と臨床試験の中核病院に指定されたのに伴い、千葉大附属病院には「ARO推進室」が設置されており、私は医師3名、薬剤師2名、法律専門家1名、他4名の計10名のスタッフの一員として、臨床試験の科学性、倫理性を検討し、研究計画データの管理、治験者の保護などに携わっています。

どの仕事も、専門性を要求されるため、むずかしさを痛感しています。が、それだけにやりがいもあり、充実した毎日を送っています。



将来、医学の道を志してくれれば...

千葉中生徒の「臨床試験部見学会」

臨床研究の重要性や意義を一人でも多くの人に理解して欲しい——と臨床試験部では、広報活動の一環として各種のセミナーを開いています。昨夏には、県立千葉中学校の医療セミナー約10名を招いて「見学

会」を開きました。当日生徒たちは、臨床試験について治療の歴史やその概要を学んだ後、薬剤部内の調剤室、注射剤室、治験管理室などを見てまわりました。その際「MRIも見てみたい」との声が挙がったため、急ぎよ場所を放射線部に移してCT、MRI、RTなどの設備に関して病院側が説明。ここで医療機器の機能について、また「新薬はどのような経過で誕生するのか?」といった活発な質問が出されました。

対応に当たった臨床試験部の医師は「生徒さんたちからは、新しい技術、新しい治療法に関するかなり突っ込んだ質問もあり、驚いている。将来、医学の道を志してくれれば」と期待を寄せていました。

また、この「見学会」に参加した生徒さんにそれぞれいくつかのテーマを提供し、齋藤康学長が千葉中で授業をした際、発表してもらいました。

## いの はな

### 亥鼻の桜

亥鼻山の桜、特に連絡道路(病院正面から西へ伸びる医学部に続く尾根道です)の桜のトンネルは、私のみならず皆様も毎年楽しみにしておられることと思います。その連絡道路の脇に、桜の新しい苗が植えられているのにお気づきでしょうか。数年前、亥鼻山の桜は「天狗巣病」という病気が広がり、葉は繁っているのに花がつかず、鳥の巣のような場所が増えていました。調べてみると、これはソメイヨシノに多い感染症で、天狗巣となった葉は早く枯れてしまい、その中の菌がさらに病気を広げていくとありました。このままでは大変なことになる一当時、病院長で現学長の齋藤康先生に相談したところ、天狗巣の部分を取り取るだけでなく、「ソメイヨシノの寿命は50~60年なので、植え替えも進めて行きましょう」ということになりました。「天狗巣病」の治療には何年かかるといわれ、もう少しばかり作業が必要かと思いますが、美しい亥鼻山の桜が今後も私たちを喜ばせてくれることになり、御尽力いただいた方々にとても感謝しております。

(脳神経外科 村井尚之)

# 学外有識者の声を聞き、運営に役立てる

## 千葉大病院 有識者懇談会



冒頭挨拶を述べる河野病院長

本院の実情について理解を得ていただくとともに、医学の教育・研究のより一層の発展に役立てるため、広く学外の有識者から自由な意見を聴くために、さる3月2日「千葉大病院有識者懇談会」が開かれました。

今年度も、地域の関係者や病院に関して高い識見を有する、加賀美幸子(千葉市女性センター)名誉館長、土屋秀雄(千葉日報社相談役)、手島英男(千葉中央会計事務所所長)、土肥紅繪(千葉県美術会常任理事)、橋本照穂(大本山成田山新勝寺貫首)、早川恒雄(千葉銀行相談役)の委員6名の出席により開催されました。

懇談会席上では、まず病院側から「医師確保の取組みや「周産期・救急医療、地域医療への貢献」、「看護師確保への取組み」等、本院の現状について説明のあとに意見交換が行われ、「女性医師の職場復帰策」や「臨床研修制度の改正と医師派遣の見通し」などのテーマについて質疑応答がありました。

特に、報道により社会の注目を集めている地域医療に関しては、「なぜ地域の病院の診療科がなくなってきたのか?」、「今後の地域病院に対する医師派遣の見通しは?」などの質問のほか、「地域医療の重要性を徹底して教育するシステムをつくっていただきたい」との要望も出されるなど、活発な意見交換が行われました。

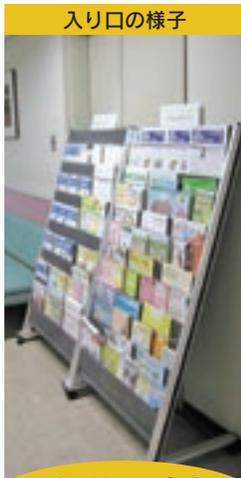
今回で第10回目の開催となった有識者懇談会。本院では、今回頂いた意見を本院の運営に役立てるとともに、今後も普段は聞くことのできない千葉県各界の識者の声を聞く貴重な場として役立て、より良い病院づくりへと努力していきます。



委員との意見交換

## 医療費のこと、生活の不安などを対象に—

### ●がん相談支援センター



入り口の様子

パンフレットをご自由にお取ください。

地域医療連携部が担当している「がん相談支援センター」では、患者さんやご家族の医療と福祉に関する相談を、専門の相談員(医師、看護師、ソーシャルワーカー)がお受けしています。

「がん」と言われると、さまざまな心配事や不安が出てきます。「治療や検査にかかる医療費が高額となり心配」「今後の生活をどうしよう」などです。そのようなときは「がん相談支援センター(地域医療連携部内)」にご相談ください。患者さんやご家族の困っている状況や不安の内容、希望をお伺いし、医療福祉制度を紹介したり、自宅で過ごす方法を共に考えたり、転院先を探すお手伝いをしたり、関係機関や院内のスタッフとの連絡調整等を行っています。



私たちが相談をお受けしています

初めての方の相談受付時間は、月曜日・金曜日、9:30~16:30です。まず、担当の病院スタッフに利用したい旨をお申し出ください。なお、電話での相談は受け付けておりませんので、ご了承ください。直接お越しいただいても受付できますが、お待ちいただく場合がございますので、事前に予約をお願いします。

がん相談支援センターは、にし棟地下1階、婦人科外来のそばにあります。

## 「シミュレーション・センター」の整備



医学教育において「臨床現場が最高の教室」「患者さんが最高の教師」といわれました。そのとおりなのですが、

ただし最高であっても完全ではありません。臨床での教育は、患者さんにある程度の協力をお願いせざるを得ず、安全の面からもモラルの面からも問題がありました。このような背景より、最近では臨床で手技を行う前に、人形などを使って練習、学習するシミュレーション教育の重要性が認識されつつあります。シミュレーション教育では、侵襲(危険性)のある手技でも繰り返し練習可能であり、救急など、つい緊張してしまうような場面では、事前のシミュレーションが心に余裕を生み安全にもつながります。また、大勢の学習者に均一の学習機会を与えられる——など利点は多くあります。

本院では、これまでもシミュレーション教育に取り組んできましたが、この春より新たに「シミュレーション・センター」を整備しました。常時使用可能なさまざまなシミュレーターを設置とともに、それらを使用した教育プログラムを運営し、新人の医師、看護師および学生の教育に努めています。

(総合医療教育研修センター 田邊 政裕 清水 孝徳)

## news

### いろいろ (教室)

ってよく聞いたらずっと続け、糖尿病治療とします。正しく理解し糖尿病患者さんを行っています。けてみません

	1回目	2回目
日時	隔週水曜日 午後12:45~(開始13:00~)	指導(教室)受講後翌週の火曜日 午後14:00~
内容	『糖尿病食療法について①』(管理栄養士) 『血糖コントロールに用いる検査について』(臨床検査技師) 『糖尿病に用いるお薬について』(薬剤師) 『糖尿病治療の基本』(糖尿病・代謝・内分泌内科医師)	『運動療法について』(リハビリテーション部医師) 『糖尿病食療法について②』(管理栄養士)

※ 糖尿病新患指導(教室)は2回セットになっており、1回目は集団でお話を聞いていただき、2回目は運動と食事について1人ひとりにあわせてご相談をお受けしています。

## 30年にわたり経済的支援

### ●臨床医学研究助成会について

病院経営の理念のひとつに臨床医学の発展を掲げている本院ですが、臨床医学研究の推進に欠かせない組織として「千葉大学医学部附属病院臨床医学研究助成会」があります。

この助成会は、昭和53年に、県内の医療・医学研究の中核的な役割を担う本院の臨床医学研究および診療の充実を図るために設立されました。

以来、今日までの30年の長きにわたり経済的な支援をいただいております。現在も、地域貢献に対する意識の高い県内の有力企業40社および個人により組織され、ご支援いただいております。

助成金は、医療機器の購入、最先端医療を担う医療者の育成のため海外の大学、病院等における職員研修の実施の他、患者さんの療養環境を充実させるため花壇、観葉植物、絵画等の環境整備、院内コンサート、いけばな展等の実施に使わせていただいております。

平成22年度 常勤職員  
**看護師・助産師 募集!**

Heart,  
心のこもった看護と  
Skill

私たちが  
目指すもの

先進医療を支える看護技術を

Responsibility

看護職として責任を持って提供することです

■資格/看護師・助産師免許を取得されている方

または新卒者で取得見込みのある方

■待遇/当院規定により優遇します。

■応募/電話連絡の上履歴書・看護師等の免許証(新卒の方は成績証明書)を郵送下さい。なお、選考日については本院HPを参照してください。

■応募またはお問い合わせ先

☎043-222-7171

総務課人事係 (内線6020)  
看護部副看護部長室(内線6518)

**千葉大学医学部附属病院**

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/recruit.html>

応募随時受付



口腔ケア専門外来を開設

**お口を清潔に保ち、  
早期QOLの向上を**

本院ではこの3月より口腔ケア専門外来を開設しました。  
「口腔ケア」とは口腔の疾病対策予防、健康保持・増進、リハビリテーションにより\*QOLの向上をめざした医療です。簡単に言えば、むし歯、歯周病の治療や義歯、歯の詰め

物の不適合の調整や口腔乾燥の改善などを行うことにより、口腔の環境を整え、外来通院・入院中の治療に伴う口内炎などのトラブルを予防・軽減させるとともに本来の治療を継続して頂きます。そして、治療後は、口腔内に生じたトラブルを早期に改善させ、口より栄養を摂取して頂き、早期に社会復帰できるように口腔ケア外来にてサポートしていきたいと考えております。

実際、口腔ケアにより口腔が清潔になれば感染症、誤嚥性肺炎の予防になるばかりではなく、全身の健康を高めることにも繋がります。ある県立がんセンターでの研究でも口腔ケアを積極的に取り入れたほうが、入院在院日数が短く、口から栄養が取れるまでの期間を短縮でき、さらに合併症の発生率も下がるといふ統計が出ています。

さらに、放射線や抗癌剤等のがん治療により疼痛をはじめとする口腔

症状、口腔粘膜炎、歯科疾患の罹患がしばしば起きることが知られており、時に、がん治療の妨げになることがあります。これらの口腔症状や歯科疾患の悪化に対して、口腔ケアや歯科治療が有効であるといわれております。そこで、さらに、その有効性を高めるために千葉歯科医師会とともに科学的に調査・評価し、歯科的介入によりスムーズで、苦痛がより少ないがん治療を実現することも、この外来の目的にしています。

口腔は呼吸、食事、会話のためになくてはならない大切な器官です。病氣治療中も口腔の健康を保ち、おいしく食べて、楽しく会話ができる生活を過し病気に立ち向かって頂きたいと思っております。そのためにも病氣療養中の患者さんには是非、口腔ケア外来を受診して下さい。ご希望の患者さんは受診科担当医あるいは歯科・顎・口腔外科外来受付にご相談下さい。

(口腔ケア外来 丹沢秀樹)

\*QOL=Quality of Life (クオリティ・オブ・ライフ)の略語。「生活の質」の意。  
\*誤嚥(ごえん)性肺炎=飲食物や唾液が食道ではなく気管に入ってしまったときに、細菌が気管や肺に流れ込んで起きる肺炎。

研修の内容は、「点滴の準備と実施」「輸液ポンプとシリンジポンプ」「車椅子移動」「点滴中の患者の寝衣交換」「血糖値の測定とインスリンの皮下注射」「洗腸」、そしてシミュレータを使って症状や観察から必要な看護を考える「フィジカルアセスメント」など、いずれも就職すれば現場ですぐに必要な看護技術です。

受講者は、1カ月前に送られてきた資料を読み、自己学習をしたうえで、朝8時から夕方5時までのハードな研修に参加しました。

病棟のベテラン看護師に加え、薬剤師、臨床工学技士など、それぞれの分野の専門家から、熱心な指導を受けた参加者からは、「実際の業務に沿った内容だったので、イメージができた」「数年前に習った技術だったので、復習ができてよかった」「初めて扱う機械や物品で練習できたので、少し不安が減った」「指導者に、自分の経験やコツも含めて教えてもらえてよかった」などの感想が聞かれました。

「自分の仕事がイメージできてよかった!」  
●採用内定看護師の早期研修

看護部では、新採用者ができるだけ早く仕事になじんで、患者さんに安全・確実な看護技術を提供できるよう、毎年採用内定者を対象とした早期研修を行っています。

今年も、3月16日(30日)にかけて実施され、合計103名が参加しました。

研修の内容は、「点滴の準備と実施」「輸液ポンプとシリンジポンプ」「車椅子移動」「点滴中の患者の寝衣交換」「血糖値の測定とインスリンの皮下注射」「洗腸」、そしてシミュレータを使って症状や観察から必要な看護を考える「フィジカルアセスメント」など、いずれも就職すれば現場ですぐに必要な看護技術です。

受講者は、1カ月前に送られてきた資料を読み、自己学習をしたうえで、朝8時から夕方5時までのハードな研修に参加しました。



色とりどりの花に見入る参観者

河野病院長をはじめ同会に所属する会員の作品12点が展示された会場では、参観者が足を止めて見入り、安らぎのひとときを過ごしていました。

参観者からは「病院内での生け花は、日常を忘れさせ、穏やかなひとときをくれました!」「すてきな花たちを見ると心が癒されました」などの感想が寄せられました。

3月16日(17日)の2日間、本院外来2階ホールで第10回学生と職員による花展「花とやすらぎ」が開催されました。この花展は、職員と学生が所属する千葉大学医学部附属病院小原流いけばなの会が開催しているものです。

**「心が癒されました」  
●学生と職員の花展**

**レジデントハウスがオープン!**

●研修環境の向上を目指して

研修医の研修環境の向上を目指し、研修医向け宿舎「レジデンス玄鼻」を大学附属病院隣接地に、開設しました。

3月19日にオープニングセレモニーが開催され、テープカットの後、引き続き内覧会が行われました。

本院では、これまでも給与の改定、研修医室の設置、既存宿舎への研修医の入居資格の付与等、研修環境改善に取り組んでまいりました。

今回のレジデントハウスのオープンは、この流れをさらに推し進めるもので、本院におけるさらなる研修医確保への効果が期待されます。

鉄骨造り地上4階建て、単身用の39室を備えているこの「レジデンス玄鼻」は、今後本院の研修医確保の一助とし、安心・安全な医療の提供と人間性豊かな優れた医療人の育成に努めていきます。



テープカットを行う(左から)石村昌之研修医代表、金子同仁会会長、齋藤学長、河野病院長、田邊総合医療教育研修センター長



レジデントハウス外観

**mini**

**検査、薬、療法いろいろ  
●糖尿病新患指導(糖尿病科)**

「HbA1c (ヘモグロビンエーワンシー)くけど何?」「インスリン注射って始めたの?」「バランスの良い食事って?」などについてわいてくる疑問はたくさんある

糖尿病は、合併症の症状がないうちに治療を進めることが大切。当院では、患者さん向けの教室を右の表のような内容で開催し、この機会に糖尿病新患指導を受けませんか?

予約制になっておりますので、ご希望医師にお申し出ください。

F R E E

〈フリートーク〉

T A L K



千葉大学大学院医学研究院  
呼吸器内科教授  
異 浩一郎

呼吸器疾患は全身を写す鏡  
注意しましょう！イビキや喫煙

高血圧、糖尿病も招く無呼吸症候群

人生の三分の一は眠っています。その眠っているときの呼吸が不規則でおかしい。いわゆる生活習慣病の一つである「睡眠時無呼吸症候群」で、そういう人は目覚めているときにも影響を受けているのです。

この症状は、成人男性の100人に4人、女性では100人に2人の割合でいるのですが、気付いていない人が多いようです。高いびきは、豪快な性格、すなわち「豪傑」の証拠というのは誤りです。

脳に酸素がしっかりと入っていかず、夜間、深い眠りに入れないことによる睡眠不足（睡眠の質の低下）の状態といえます。運転士の居眠りによる列車事故の中には、この無呼吸症候群が原因の場合が多くあります。

眠っているときに、きちんと呼吸をしていないということは、高血圧、糖尿病、心筋梗塞を招くおそれもあり、私共から見ればつきとした病気なのです。「イビキがうるさい」といわれる方は、ぜひ呼吸器内科を受診していただきたいと思います。

喫煙やめられないのはニコチン中毒症

次に「喫煙」の問題です。喫煙者の多くは、タバコの害は知りながらもやめられない。なぜやめられないのか？これは単なる癖ではなく、病気といっても過言ではありません。ニコチン中毒症といえるでしょう。頭がニコチン依存症になっているのです。

日本人の12人に1人は、タバコによって肺が壊れているといわれますが、自覚していない人が圧倒的に多いのが実情です。しかし、静かに進行していき慢性閉塞性肺疾患（COPD）となります。このCOPDになった場合、普通の人より10倍肺がんになることが分かっています。

肺がんについては、その患者さんに合った抗がん剤を使うことによって、昔に比べれば格段に効果を挙げることが出来ます。内科医の役割としては、まず早期発見が大切で、新鋭機器のマルチスライスCTの導入によって、それを実現しています。

肺の血管が詰まり酸素不足

また「エコノミークラス症候群（肺血栓塞栓症）」は、寝たきりだったり、長時間同じ姿勢でいると、肺の血管が詰まって酸素不足になる病気ですが、この治療では千葉大学病院が大きな実績を挙げています。

私の担当する呼吸器内科では、さまざまな治療にあたり、西洋医学を基本に、東洋医学（漢方医学）の良い点を活用することが効果的で、患者さんにも喜ばれています。

【プロフィール】  
信条・趣味＝生活信条は「温故知新」（古きをたずね新しきを知る）、また「不易流行」（根本を変えずに新しい物を加えていく）。どちらも、医学の世界では重要なことで、私のモットーでもある。  
体を動かすことが好きで、ストレス解消のため、朝3kmのランニングをしている。音楽も好きで、クラシックを聴きながら書き物をするとき集中できる。

トピックス  
あなたのコンタクトレンズは大丈夫？

コンタクトレンズ。眼鏡と同様知らない人はいない視力矯正の重要なツールですね。あまりに身近になったため「どんなコンタクトレンズも医療器具である」という認識が薄れてきているように思われます。

また、使い捨てという言葉にも惑わされていませんか。2週間や1カ月で交換するタイプでも、一度目に触れるので必ず汚染されています。きちんとケアしなければ、微生物がたつづついたレンズをわざわざ目にのせているのと同じこと、使い捨てにした意味がありません。

そして、どのレンズケア製品もこすり洗いとすすぎは必須です。一本ですべてまかなえるタイプでも、こすり洗いをしないと、汚染されたままだということが分かっています。もちろん、ケースも定期的に交換が必要です。汚染されていますからね。

平成19年から行われたコンタクトレンズ関連角膜炎感染症全国調査では、入院が必要となった重症症例のうち、治療3カ月後でも21%の症例は視力が0.1未満、21%の症例が0.1~0.6と眼鏡やコンタクトレンズを使用しても視力不良となっています。原因は、レンズケアがきちんと行われていなかったことによるものでした。

コンタクトレンズが原因で、眼鏡をかけても視力が出ないのでは悲しいですね。もう一度使用方法、レンズケアを見直してみてください。

(眼科 平松彩子)

春がやってきました。本号のコラムでも取り上げられている千葉大病院周辺の桜を、皆さんはご覧になりましたか？不景気が嘆かれ、地球温暖化が懸念される昨今、あたりまえであるはずの春の訪れや桜花のはころびをととても貴重なものとして感じます。

以前、私が暮らしていた北欧スウェーデンの街では、暗く寒い冬が7カ月も続いたあと、5月の最初の1週間で草木が一気に萌え、大地が緑に変わります。このため、人々は春を「Explosion（爆発）」と表現していました。

それに比べると、日本の春はとても穏やかですが、新たな生命の息吹を感じ、一年のうち最も癒される季節であることに違いはありません。千葉大病院も、私たちが頼り訪れる方々を常に癒してくれる春のような存在でありたいと思います。

(編集委員 糖尿病・代謝・内分泌内科 横手幸太郎)

亥鼻 8  
むかひ・昔

江戸時代にも千葉氏再興を祈って  
七天王塚と千葉氏

千葉大学医学部の敷地内と敷地外にある七天王塚の七つの塚は、千葉氏が信仰した北極星もしくは北斗七星を表しているといわれています。

妙見さまを信仰した千葉氏と七天王塚との関わりは、古い文献を紐解いてみても、なかなか分かりません。そこで、七天王塚を詳しく調べてみると、千葉氏伝承との関係がうかがいあがります。

安永二年の造宮碑銘がある牛頭天王の碑には「大治元丙午六月朔日平常重代」と書かれているのです。大治元年（二二二）とは、千葉常重が亥鼻の地に城を構えたときを祈っていたのかもしれない。

この碑が造られた安永二年（一七七三）は、大治元年から六五〇年余り経った江戸時代です。安永年間になっても千葉の人々は千葉氏を偲び、この碑を建てたと考えられます。

江戸時代の千葉の人々は、千葉氏が再興することを祈っていたのかもしれない。

「千葉開府」といわれる、千葉氏にとって重要な年です。「平常重代」とは、常重の代わりについたという意味でしょう。

そのため、千葉氏と七天王塚とが結び付けられ、七天王塚を千葉氏の七人の家臣の墓、あるいは兄弟の墓という伝承もあります。

(妙見信仰研究家・宮原さつき)

千葉常重が大治元年に大椎から亥鼻に居城を移した（現在の千葉市郷土博物館）